

885万人の選択
07 知事選
＜中＞

県政の課題 環境

△神奈川県は県内の森林保全のため、今後50年間で広葉樹を中心に1800万本を植樹する構想を発表した▽

昨年11月3日、横浜市港北区の会社社長、出縄貴史さん(52)は「県の森林再生50年構想」を紹介した新聞記事に入った。

「すばらしい構想と思ったんですが」

◆ ◆ ◆
出縄さんの会社は平塚市内の授産施設で働く障害者のため、外部から仕事を受注している。施設では知的障害者ら50人が公園などで集めたドングリの実や芽株を育て、ビニールハウスに広葉樹であるタ

スギやヒノキの人工林は昭和30年代に国の首頭で拡大した。だが、安い外国材に押され、この25年で価格は3分の1以下に下落。採算がとれず放

置かれた林は荒廃し、土壌も流出。スギ花粉も人々を苦しめている。

昨年10月の記者会見で、松沢知事は50年構

想について「広葉樹を導入し、50年後には現在約3万2000本あるスギ、ヒノキの人工林を半分程度にしたい」と述べていた。県のホームページに掲載されている知事の言葉や関係資料を読んでも、広葉樹を中心

に植える構想のように見える。

一方、広島大学大学院の中根周歩教授(森林環境学)は「針葉樹を間伐し

て放っておいても、広葉樹の森になるには100年かかる。水源涵養の

ための森林なら最初から保水機能の高い広葉樹を植えるべきだ。どうして

松沢知事の対抗馬として知事選への立候補を表明している前埼玉高速鉄道社長、杉野正氏(48)は「山林をきっちりと整備し『山のちから』を取り戻す」、鴨居洋子氏(62)は「共産党推薦は『住民団体との協働を優先した保全計画を作る』とうたっている。だが、具体的なプログラムは見えない」。

今月4日、出縄さんは松沢知事が2期目のマニフェスト(政策綱領)に県民の意見を取り入れるため開いたフォーラムで、こう訴えた。

「県は大量のスギ、ヒノキを植えるというが、県民はどのような説明を受けていない。広葉樹が生えてくるのを待つという悠長なやり方であっていいのか、心配です」

【足立有子、写真も】

森の再生のため、県は50年間で1800万本を植樹。この97%がスギとヒノキだ。

森林地主の意向強く



障害者たちが育てているカシなどのポット苗。根がポット内に充満するまで待ってから植えると、よく根付くという＝平塚市の進和学園で2月24日

知事からの返事に驚いた出縄さんが県森林課に尋ねると「広葉樹はスギやヒノキを間伐した後自然に生えてくる」と説明されたという。同課の担当者は毎日新聞の取材に対し、1700万本余の針葉樹を植樹する構想をまとめた経緯を「スギ、ヒノキでないと売れないという森林地主の意向が強い」と説明している。

◆ ◆ ◆
50年構想の主な財源は、県が新年度から県民税に1人あたり年950

円を上乗せして徴収する「水源環境保全税」。税収は年38億円にのぼる見通しだ。

森林再生について、松沢知事の対抗馬として知事選への立候補を表明している前埼玉高速鉄道社長、杉野正氏(48)は「山林をきっちりと整備し『山のちから』を取り戻す」、鴨居洋子氏(62)は「共産党推薦は『住民団体との協働を優先した保全計画を作る』とうたっている。だが、具体的なプログラムは見えない」。

今月4日、出縄さんは松沢知事が2期目のマニフェスト(政策綱領)に県民の意見を取り入れるため開いたフォーラムで、こう訴えた。

「県は大量のスギ、ヒノキを植えるというが、県民はどのような説明を受けていない。広葉樹が生えてくるのを待つという悠長なやり方であっていいのか、心配です」

【足立有子、写真も】